

今回の Topics は、コロンビア物流概要についてです。W杯でご記憶の方も多いかと思いますが、コロンビアは人口約4700万人と南米の中でブラジルの約1億9000万人について2番目に人口が多く、また、一貫して着実な経済成長を記録してきました。一方、長年治安の悪さが課題とされてきましたが、治安の改善とともに最近では日系企業の進出も進んでいます。ぜひご一読下さい。

I. 概要

首都は人口約770万人を擁するボゴタ、その他、第2の都市メデジン、第3の都市カリと国土の北西部に大都市があり、それ以外に人口10万人規模の都市が点在しています。

経済においては、コーヒーの輸出中心の経済から石油・石炭等の資源輸出を伸ばしており、それに伴う関連の直接投資も増え、現在安定した経済成長を見せています。(直近30年でもマイナスの経済成長となったのは、1999年のみ。)また、インフレターゲット制がうまく機能しており、物価上昇も安定しています。加えて、メキシコ、ペルー、チリという開放経済政策を取る中南米の4カ国で形成される太平洋同盟(Alianza del Pacifico)の一角を占めており、アジア太平洋地域との政治経済関係の強化を目指しているとも言われています。

実際に、日本を含めたアジアからコロンビアへの輸出は拡大傾向にあり、日系企業のコロンビア進出も増加傾向にあります。

II. 物流事情

コロンビアは、アンデス山脈が南北に国土を縦断しており、かつ、途中から3つに分岐しているという状況にあり、このような地形上の特徴が物流事情を厳しいものとしています。(世界銀行がまとめている“Logistics Performance Index”(2014年)においても、全世界で97位となっています。)

特に首都ボゴタ自体が標高約2,600mの高地にあり、主要港の1つであるブエナVENTウーラ港からのアクセスは約24時間にも及ぶと共に、道中でアンデス山脈を2つ越える必要があり、また、幹線道路であっても道は狭いという、非常に厳しい物流環境となっています。このため、コロンビアのさらなる発展に向けては、物流インフラの整備が不可欠と言われています。

なお、コロンビアの主要港としては、太平洋側に面しアジアとの窓口となるブエナVENTウーラ港以外にも、大西洋に面しアメリカとの窓口となるカルタヘナ港、バランキージャ港があります。





Ⅲ. 物流に関する最近の動向

日系企業の中には国内輸送コストを抑えるため、ボゴタからブエナVENTウーラ港近くの都市に物流拠点を移設しようという動きも見られています。移設が進展すると、コスト削減効果に加えて、自社リスクでの輸送距離が短縮されることにより、貨物の損害発生リスクが低減することも期待されます。また、コロンビアの輸出企業もブエナVENTウーラ港近郊に工場を建設する動きが見られています。

併せて、2018年頃を完成の目処として、ブエナVENTウーラ港から北東部までの120Kmにわたる道路建設計画も進められており、物流環境改善の期待がかかっています。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら弊社営業担当までお寄せくださいますようお願い申し上げます。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html